

ExtraNews in カンボジア

「地雷に関連した支援活動に使って欲しい。」日蓮宗名古屋青年会からご寄付があった。カナダで対人地雷禁止条約が採択されて今年で10年を迎える。未だに地球に1億個以上埋まっているとされる地雷は、埋設すると半永久的に効力を持ち、争いのない時代でも人々を襲う「悪魔の兵器」と呼ばれている。毎年2万5千人以上の犠牲者が出ている。地雷が埋められている国は72カ国に及ぶと言われているがその多くが貧困や飢餓に悩み、衛生医療面で問題を抱えている。カンボジアもその代表国だ。1970年から約30年に及ぶ内戦中に、紛争4派（政府軍、ポル・ポト派、シハヌーク派、ソン・サン派）によって狭い国土に大量の地雷が埋設され、世界で最も地雷埋設密度の高い国と言われている。その数600万個以上。ここ数年でも年間800人（子供200～300人）もの犠牲者が出ている。

この度の名古屋青年会40周年記念事業は、現地で長く地雷対策活動をしている「シャンティ国際ボランティア会」を通じ、被害者が多い北西部バンティミンチェイ村の小学校へ図書室を贈ることになった。沢山の子供たちが本の世界にひたり、ひとときでも楽しく過ごしてもらえることを切に思う。

- ・常時ご寄付を集めています。
- ・事業のスポンサーになって下さい。
- ・国際協力に興味のある方、ご連絡下さい。
- ・様々な国際貢献を提案します。ご相談下さい。

群馬銀行本店 普通預金口座 2134150
郵便局 00160-5-591781

特定非営利活動法人T・M良薬センター事務局



〒371-0852
群馬県前橋市総社町総社1024
(Tel&Fax) 027-254-2325
(E-mail) office@tmrc.jp
(HP) www.tmrc.jp

表紙写真 / ミャンマー・ナッカヤイ村で

ロンボークラブ 12



T・M良薬センター ニュースレター

ミャンマー / スリランカ / カンボジア / ネパール / ベトナム



ニュースレター第12号
平成19年11月16日
T・M良薬センター事務局
Tel・Fax : 027-254-2325
E-mail : office@tmrc.jp
http://www.tmrc.jp

会報印刷 : 群馬県沼田市沼田幼稚園

ミャンマープロジェクト

軍事政権の弾圧に講義

9月26日の僧侶や民衆の自由化の叫びを圧殺した政府に抗議するため、当会は役員会を開き、ミャンマープロジェクトを凍結した。現地事務所長のタン氏と話し合い、整体指導の活動などをとりやめている。ミャンマーの国に民主的な社会が一日も早く実現するよう祈るものである。

きれいな水で乾杯しよう

群馬県藤岡南ロータリークラブが昨年、山村に井戸を寄贈したことに続き、この度は沼田ロータリークラブが新たに事業に参加し、2007年5月16日から20日まで井戸完成に伴い、ナッカヤイ村の訪問ツアーを実施した。



前回の井戸はモーター式で大型のものだったが（掘削工事費40万円、地下40m弱）、燃料費がかかり現在稼働が制限されているため、今回は手押し式の深さ約15mの井戸をザカイン地区の村々に5基掘削・寄贈した。（1基5万円程度）

約3千人住んでいるこの

村には井戸も水道もなかったが、これからはいつでもだれでも、きれいな水が飲めると大変喜ばれた。村人は遠路訪れた沼田RCのメンバー（オレンジ色のユニフォーム）を大いに歓迎した。



スリランカプロジェクト

子供たちに希望の光を



大津波に襲われた東海岸の村パーナマで、子供たちのメンタルケアのために2005年11月に日蓮宗の支援により完成した「日蓮宗パーナマ学習センター」から、その後のセンターの様子が届いた。

家族を失うなど心に深い傷を負った子供たちを救うためにどうすればよいか、村唯一の学校の校長であり村人たちの支えとなっているチャンドラテナ・マヤカ僧正と相談した結果、図書のある教育・訓練施設を建設したものだ。



日本から新たにパソコン・プリンター式の寄付があり、初めて触れる機械に生徒たちは興味津々の様子。このセンターでは毎日読書をしたり、楽しく過ごす子供たちであふれている。

常時図書の寄付を募っています。ご協力を！！

ネパールプロジェクト

釈迦族がつくる香盒



この写真は事業パートナーのシュメッド・シャカ氏が07年7月に来日した際、身延町の松司軒仏具店から持ち帰ったサンプルをもとに現地で作成した香盒（銅製、銀メッキ、手作り）。

昨年末から釈迦族支援のため松司軒の協力を得て、香盒販売事業を進めている。今回で2度目となるサンプルをチェックした小池ひろみ松司軒店主は国内需要を考慮し、完成度を高めるため銀100%で作ることを要請した。ところが純銀は柔らかく強度にかけるため蓋との接合部分などネパールの手芸技術では限界が見えた。シュメッドさんは工場（と言っても小さな部屋で数人の職人が作業をしている場所）を転々としながら試作を重ねた。10月に入って現地から「銀の料とサイズを増やしたい。銀100%で作れる。」との連絡があった。小池さんの許可を得て、この冬本格的に純銀香盒の作成にたどり着いた。

去る7月シュメッドさんと対談した小池さんは商売人同士率直な意見を交換した。「日本の市場は厳しい。現地の技術を高めなくてはならないと思います。時間がかかってもいい。それが将来必ずその方々の宝になるからです。もともと妥協するつもりはありませんよ。」と本気モード。さて、3度目のサンプルは合格するのでしょうか。来年には店頭にも並ぶかもしれません。その暁には釈迦族支援の一品をお買い求め下さい。



ベトナムプロジェクト

センターの立役者

現地事務所長グエンフォン氏が校長を務める「日越IT語学センター」では日本から派遣されている清水智子職員も3年目を迎え、ライバル校の多いハノイ市内でも低価格Goodサービスで生徒数は200人を越える人気ぶりだ。しかし、生徒が増えても利益が上がらず経営の改正が必要となっている。新年度から経営一新するために検討中である。ここではセンター設立時(04年4月1日)からサポートしていただいた現地職員を紹介したい。

校長の実弟グエン・チー・トワンさん（写真左、25才）は、センターサイトのWebデザイン・更新・管理やPC関係の修理全般、センター内の修理、法人契約の際の書類作り、クラスの時間割作り、そして金庫管理と公安警察の接待を担当してきた。07年9月30日で退職し、現在朝日大学留学生別科（岐阜県瑞穂市）に留学中。来日当初ストレスで7Kg痩せたが、今では日本を満喫している様子。「100円ショップ」に感動し、スーパーを物色するのが楽しみだそう。最近覚えた日本語は「**すげ～じゃん**」。

写真右のファン・ミン・アインさん（24才）は、センターの会計や申し込み手続き、先生の手配とクラス調整、生徒・先生からの質問・相談・クレーム処理（チャットでの問い合わせにも対応）、教科書等の印刷など事務・雑務全般をこなしている。独学で日本語を学び、昨年には日本語能力試験3級に合格。生徒、先生、職員から絶大な信頼を受けセンターの「お母さん」的存在。来年4月からの日本留学を目指し準備中。夢は日本語教師。



カンボジアプロジェクト

自転車に大喜び



2007年3月に川崎市役所から無料払い下げを受けた放置自転車250台を日蓮宗神奈川一部社教会と東京南部社会活動部会、貿易会社MTMジャパンの方々の協力を得てコンテナ発送したが、8月無事に到着し9月12日に寄贈式が行われた。

文化宗教省を通じてカンボジアに渡航した小野文瑛理事長と新井恵裕会員は副大臣案内のもとタケオ州の村の学校を訪問し大歓迎を受けた。子供たちの通学用に自転車をリサイクルする本活動は前回のミャンマーに続き2度目。



受け渡しの儀式が終わると我先にと一斉に子供たちがなだれ込み、最高のプレゼントを試乗してみるのだった。この他、一緒に積載した中古家電製品やパソコン機器、衣料品なども寄贈された。



日本のお坊さんからの贈り物

日蓮宗宗立熊谷学寮の第1期生有志は、カンボジアの子ども達に学校を送ろうと資金を集め、T・M良薬センターに委託した。日蓮宗宗務院がこの企画をバックアップして、タケオ州ポアンピールパゴタ境内に、「サッドルマ・スクール」（妙法学校）が建設されることになった。9月11日、カンボジア文化宗教省にて調印式が行われ、12日、現地で小野理事長のもと起工式が施行された。



いよいよ、7~15才の子ども400人が通学する仏教学校が出現する。当日は地域の村人や子ども達1000人以上が集まってセレモニーに参加し、完成を待ち望んでいる。

日本の学生も学校を

群馬県藤岡市内の小・中高生の生徒が、2年前からアルミ缶等を集めてリサイクルをし、お金を貯めている。今年、「アジアの友達に学校を贈る会」が組織され、町をあげて応援している。プルトップや牛乳パックも続々集められ、夢が具体的になりつつある。当会はこの生徒のリサイクルとボランティアの精神に共鳴し、全面的に協力することを約束、カンボジアの学校がなくて困っている地域を紹介している。今後2年計画で進行中。小さな種が大きくみのりそうである。